

広報

もり 中部の森林

私の森語り「こどもたちとみどりをつなぐ橋渡し役になる」
2024ミス日本みどりの大使 安藤きらり



写真：ムササビ(愛知所管内)

特集

- ・紅葉散策に出かけよう

シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2024/No.247



ブナの黄葉

中部森林管理局の管内は、北海道側の富山県から太平洋側の愛知県まで南北に広がり、垂直には標高の低い都市近郊林から二〇〇〇メートルを超える北アルプスの高山帯まで広がっていることから、九月中旬から十二月上旬まで各地で変化に富んだ秋を楽しむことができます。

秋の行楽シーズンを迎え、紅葉散策にお薦めの国有林五箇所を紹介しします。

紅葉散策に出かけよう
 ～秋の行楽に～
 お薦めの国有林～

北アルプスと言えば三〇〇〇メートル級の山々がそびえる、日本でも険しい山岳エリア。その一つが立山。

富山県にある雄山（二、〇〇三メートル）、大汝山（三、〇一五メートル）、富士の折立（二、九九九メートル）の三つの山を合わせて立山と呼びます。初心者からファミリーまで毎年たくさん登山客が訪れる山岳エリアです。

紅葉の見頃は例年、九月中旬から十月上旬。



雄山から室堂平の紅葉を見下ろす

～初心者からファミリーまで～
 おやま おおなんじやま ふじのおりたて
 雄山・大汝山・富士の折立
 （富山県立山町）



紅葉が落差89mの不動滝を囲むように彩る

日本の滝一〇〇選に選ばれ、紅葉の名所としても有名な米子大瀑布。落差八九メートルの不動滝は黄色を中心とした紅葉が滝を囲みこむように映え、権現滝では、もみじの赤色が滝の流れを彩り鮮やかに飾ります。滝までの遊歩道や周遊コースには二つの滝が撮影できる絶景ポイントもあり、紅葉狩りが楽しめます。

紅葉の見頃は、例年十月中旬から下旬。

～彩り鮮やかな～
 秋の米子大瀑布は絶景！～
 よなこだいぼくふ
 （長野県須坂市）

岐阜市の中心部に位置する金華山国有林は、その名前の由来ともいわれる、ツブラジイが晩春から初夏にかけて開花し、山肌が黄金色に染まる風景が有名ですが、山麓の岐阜公園と山頂の岐阜城は、飛騨・美濃紅葉三十三選に選ばれており、秋の彩は見事です。

紅葉の見頃は、例年十一月上旬から下旬。



金華山山頂にそびえる岐阜城と紅葉

～紅葉に映える岐阜城～
 きんかざん
 金華山自然観察教育林
 （岐阜県岐阜市）



紅葉とのコントラストが見事な高樽の滝

森の中心部を「青川」とも呼ばれる付知川が流れ、高樽の滝、高時の滝、地獄淵など数多くの滝や淵があります。天気の良い日に、遊歩道を散策しながら眺める、澄みきった吸い込まれそうなエメラルドグリーンの渓谷と美しく流れ落ちる滝、紅葉して赤や黄色に染まった木々とのコントラストは絶景です。

紅葉の見頃は、例年十月下旬より十一月上旬。【東濃森林管理署】

〜深山の情趣に満ちた森と渓谷〜
付知峡自然休養林
(岐阜県中津川市)

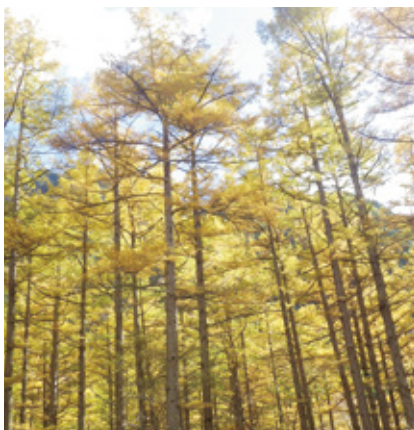


カエデやクヌギがぐらぐらり渓谷の清流を染める

春は鮮やかな新緑の中で野鳥のさえずり、夏は涼しい清流にカジカガエルの鳴き声、足元にはテйкаカズラ、ギンラン等の山野草など、四季折々の魅力に定評のあるぐらぐらり渓谷では、秋にハイキングコース沿いのカエデやクヌギが清流を赤黄に染めていきます。

紅葉の見頃は、例年十一月中旬から十二月上旬。【愛知森林管理事務所】

〜溪谷の清流を赤黄に染める〜
閼刈風致探勝林
(愛知県岡崎市)



カラマツの黄葉

・森林散策などは、自己責任が原則となります。秋の日没は早く、急に暗くなり冷え込むことから、体温調節が行いやすい服装や歩きやすい靴を身に着け、事前に天候などの情報収集を行きましょう。

・樹木を傷つけたり、植物を持ち出したりしないようにしましょう。

紅葉は、日中温かく、夜から朝にかけて急激に冷え込み、寒暖の差が大きくなるときれいに色づいていきます。管内では、北から南へ、山から里へと徐々に移動する紅葉を長い期間楽しむことができますが、お出かけの際には注意が必要です。

安全で楽しい紅葉散策のために

愛知県内の
紅葉情報はこちら↓



岐阜県内の
紅葉情報はこちら↓



長野県内の
紅葉情報はこちら↓



富山県内の
紅葉情報はこちら↓



中部局管内の
お薦め国有林はこちら↓



マスタケ (写真撮影のみお楽しみください)

同支部は、社会貢献活動として、毎年、木曽地域の国有林に所在するレクリエーションの森を主体に、環境美化の奉仕活動を行っています。今年には会員三十名と当署職員が参加し、廃材の撤去では、各自が背負子しよいこを利用して片道約五〇〇メートルの道を往復すること数回、普通トラック二台分に相当する量運び出しました。除草作業は、休養林内の林道上赤沢線沿



歩道の板材を撤去する参加者

境整備作業が行われました。六月二十六日は、長野林業土木協会木曽支部が主催し、赤沢自然休養林内の遊歩道に設置された木橋きょうの修繕工事で発生した廃材の撤去と、林道沿線の除草作業が行われました。

線で実施しました。六月二十七日は、木曽御岳自然休養林内の田ノ原天然公園（以下「公園」）において、長野国有林森林整備協会木曽支部、王滝村や当署職員約六十名が参加し、木製遊歩道整備が行われました。公園は御嶽山への登山道の一つ「王滝口」の起点となっており、夏山登山者の増加を前に、安全に利用いただくため、公園内の古い木製歩道を撤去しました。普段の急峻な現場作業で鍛えられた参加者が多く、湿地帯で足場も悪い中、



オオハンゴンソウ駆除作業の様子

一人で四枚以上の板材を運ぶ強者つわものもおられ、予定した区域内の撤去は全て終了することができました。また、八月九日には、赤沢自然休養林内の併用林道沿線で「赤沢溪谷を美しくする保護管理協議会」主催による特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除作業が行われ、両協会、長野県木曽地域振興局や上松町、当署職員など約六十名が参加しました。炎天下の中、参加者は汗だくになりながら、繁



木製遊歩道整備ボランティアの参加者

殖力の強いオオハンゴンソウがこれ以上拡がらないよう根ごと抜き取ったうえで、折り曲げてポリ袋に詰め込み、普通トラック四台分を駆除することができました。当署では、今後も地元の自治体や関係団体等と連携・協力し、山村地域の振興に努めてまいります。

レクリエーションの森の環境整備
 (赤沢・木曽御岳自然休養林)



小学校高学年の部 最優秀賞「ぼくの木製一輪車」

えなの木、もりの木、
きになる木コンテスト
「木づかい作品コンテスト」

【東濃森林管理署】

九月六日から八日、岐阜県恵那市の共同福祉会館において、「えなの森林づくり推進委員会」と「恵那市」が主催する「第十五回えなの木、もりの木、きになる木コンテスト」が開催されました。

この催しは「木にさわってみよう！道具を使って何か作ってみよう！私たちの暮らしの中には、木



中学生の部 最優秀賞「天然木のテーブルランプ」

でできたものがたくさん。木を活かして森を守る」をテーマにした木工作品コンテストです。

今年市内の小中学生から、夏休み中に制作した作品一九点の応募がありました。それぞれの作品には、創作に至った背景や、製作する段階で苦労した点などの解説が添えられており、会場には作品に対する生徒の思いが伝わる力作が所狭しと展示され、大いに盛り上がりました。

作品の出来栄もさることながら、添えられたエピソード等も相まって、採点する審査員泣かせと



会場の一角を利用して木材利用推進月間等のPR

期間中には、会場の一角を利用して東濃森林管理署コーナーを設け、十月から始まる「木材利用促進月間」のPRや、御神木の街として知られる東濃地域を紹介する展示を行うなどしてコンテストへ積極的に関わりました。
これから多くの方々へ、森林・林業の魅力、木材利用の推進について、地元関係者の皆様と共
に情報発信等を行います。



中学生の部最優秀賞作品「天然木のテーブルランプ」は、クイズ付きでした。家のまわりにある木で工作し、使った木は十種類とのこと。作品とは別に使用した木が並べられ、「何の木かわかりますか？」と問いかけています。拡大してみました。果たして、木の肌を見て判断できるでしょうか。（答えは十ページにあります。）

こぼれ話

〈各地からの便り〉

国有林作業現場等
視察交流会を開催



【名古屋事務所 南木曾支署】

九月二十日、名古屋地域の木材関連産業に携わる方など約三十名参加のもと、国有林作業現場等視察交流会を開催しました。この交流会は、川下の木材産業従事者や建築士等が、川上の森林・林業の実情や取組について理解を深め、両者の交流を図ることを目的に、名古屋木材組合と連携して、平成二十五年から毎年実施しているところ です。

今年度は、南木曾支署管内の南 蘭 国有林（長野県南木曾町）において木材生産事業現場と、製材・木材加工工場を視察しました。木材生産事業の視察箇所は、区域が約六七㍎、生産量六、八〇〇方㍎を予定する規模の大きな事業地で、架線集材と車両系集材を併用しています。

事業の受注者である（有）今井木材から、架線集材の仕組、集材機

の操作方法、索張り方法等に加え、併用している高性能林業機械の説明を受けました。

視察を行った土場からは、対岸の山に張られた架線（約九八〇㍎）が一望でき、搬器に吊り下げられた木材が土場に搬入され、プロセッサにより造材されるまでの工程を間近で見ることができました。本格的な架線集材を初めて見る参加者が多く、木材がどのように運ばれてくるのか興味深く見学していました。

午後は、南木曾町で製材・木材加工業を経営する（株）勝野木材の



架線集材の様子を見学する参加者

製材工場の見学を行いました。同社は、関連会社による木材の伐採・搬出に始まり、建築用材や社寺用材の生産販売、新素材の開発等、木材に関わる一連の事業を通じて、地元の森林・林業、木材産業の発展や活性化に取り組むことを基本理念としています。会社概要等の説明後に、製材工場と隣接するモデルハウスを見学しました。

角材の製造工程では、製材後の乾燥で含水率を一定に管理し、乾燥後は細やかで厳密な修正挽きを行い、一〇〇分の一ミリの精度で加工する技術を見学しました。また、ヒノキ端材から香りの成分「ヒノキチオール」を抽出する商品開発等も見学し、木曾ヒノキの高品質化や多様な活用等の取組に対して、参加者から数多くの質問が出されました。

参加者へのアンケートでは、「厳しい自然の中で細心の注意を払いながら作業されている姿が印象深かった」「普段は何気なく目にして



工場内で説明を受ける参加者

いる木材が、これほどの手間と技術を費やされてできていることを実感した」「木曾ヒノキを製品にする努力に感銘を受けた」「説明から担当者の熱い思いが伝わってきた」等の感想が寄せられました。

今後、川上と川下の交流により、林業と木材産業相互の理解が深まるよう、継続した取組を行う予定です。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第42回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曾」その六

大材吊り

「大材吊り」は急な斜面から貴重な大材を下ろす際に、丸太に「目戸穴」と呼ばれる穴を開け、綱を通し、大人数で力を合わせながらゆつくりと下ろしていく方法です。丈夫な麻綱が太い立木や根株に巻き付けられますが、摩擦で火が起ることさえあったそうです。

木曾でも大材吊りは行われていたのですが、裏木曾では急な斜面から伐採・搬出をしなければならず、



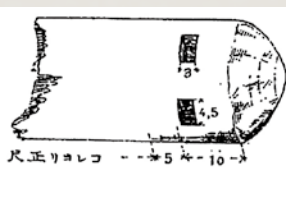
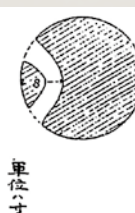
大正九年、裏木曾からの神宮（伊勢）用材を大材吊りで出材する様子（おそらく現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）。



ればならない機会が多く、人力が頼みの時代には運材にこうした工夫・苦勞がありました。ヒノキのみならずケヤキの大材もこの方法で動かされることがありました。

綱を通す「目戸穴」は目戸斧と呼ばれる特殊な細い刃を持つ斧を用いて、材を貫通する穴を掘ります。大材吊りは行われなくなつて久しい運材方法ですが、現在でも神宮（伊勢）の式年遷宮関連行事では目戸穴を模した貫通していない象徴的な装飾が彫られることがあります。

（上図右）大正五年帝室林野管理局発行「木曾御料林之造材運材」より目戸穴の図、（上図左）目戸斧



（下写真）平成十七年の神宮式年遷宮関連行事での御神木（長野県上松町）。目戸穴は実用性のない象徴的な装飾として僅かに彫られている。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



ミズナラの遺伝資源を守る森林

うみじり
海尻ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

ミズナラは我が国の冷温帯落葉樹林を代表する樹種であり、北海道東端から九州南端まで広く分布しています。また、家具材や樽材等に利用されてきた、林業的にも重要な樹種です。

このため、北海道を中心とした全国各地の国有林において、ミズナラの遺伝資源を保存するための保護林を設定しており、当保護林はそのひとつです。

地況・林況

八ヶ岳連峰から東に流れ出る湯川に面する北向き斜面に位置し、斜面上部は高い岩壁が連続しています。標高は一、〇〇〇メートルを超え、冬の寒さは非常に厳しく、零下二〇度以下になることも珍しくありません。

林況は、樹齢約百年のミズナラ、シオジ、サワグルミ等が群生する天然林となっています。

所在地
長野県南佐久郡南牧村



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【伊那谷総合治山事業所】

小渋川治山事業所

治山技術官 久古 和貴

小渋川治山事業所では、長野県下伊那郡大鹿村を事業地として、民有林内の崩壊地復旧などを目指す治山事業を行っています。

大鹿村は、南アルプス赤石岳のふもと、天竜川流域小渋川の上流部に位置しています。村を南北に縦走する中央構造線という断層に沿って、崩壊や地すべりを起こしやすい地質が広く分布し、いたる所に大規模崩壊が発生しています。特に、昭和三十六年に発生した豪雨災害「三六災害」では、伊那谷地域で多数の崩壊が発生し、甚大な被害を与えました。こうした崩壊地の復旧等を行うため、地域か



復旧が進む鷲ヶ巣大崩壊地（直轄治山事業）

らの強い要請を受け、県に代わって国が治山事業を実施することとなりました。小渋川地区では、昭和二十五年から直轄治山事業、昭和五十九年から直轄地すべり防止事業に着手しています。治山事業所の業務としては、管轄区域内で行う治山工事箇所の調



地すべり抑制のための直径約2.5m、延長約900mの排水トンネル（直轄地すべり防止事業）

査・計画や、予算要求等の事務作業、地元への説明などがあります。また、工事の実施にあたり、工事費用の算出などの事務、請負業者との調整や現地立会などの監督業務を行います。当地区の直轄事業はまもなく、計画した事業を完了する「事業概成」を迎え、その後は長野県へ移管することとなります。現在は、残っている工事の実施や、過去に施工した施設の補修工事を



現地調査中の筆者

行っています。
■未来の担い手へのメッセージ
私たちが進めている治山事業は、崩れた山を森林へ復旧させ、山間地域の生活を守り、下流の都市部への土砂流出も抑える重要な業務です。皆さんが暮らしている場所に関わらず、興味を持ってもらえることを願っています。

〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「こどもたちとみどりをつなぐ
橋渡し役になる」



2024ミス日本の大使
みどりの大使
安藤 きらり

■自己紹介

ミス日本みどりの大使は、緑の募金の呼びかけや、森林や木々への親しみを広げる役割を担っています。私が全国で活動する中で、大切にしていること、気がついたことを紹介したいと思います。

まず私は、こどもたちとみどりの関わりを大切にしています。私は学生時代に、幼稚園や学童、放課後デイスタービス、チャースクールなどで、こどもたちに接するアルバイトをしてきました。その際、こどもたちのインターネット依存による、自然体験の減少を問題視するようになりました。文部科学省などの調査機関に

よる報告では、自然体験の減少の影響として、こどもたちの体力や運動神経、問題解決能力、主体性の低下が指摘されています。

実際に私はそれを保育園などの現場で感じていました。外遊びを好むこどもが少ないこと、液晶画面上で学びを完結させてしまうこどもが本当に多くなっています。私は、多くのこどもたちに、自然と触れ合っ、より多くの学びを得てほしいという強い思いがあります。

■活動内容

みどりの大使の活動を通じて、こどもたちと関わることでできた経験を二つご紹介します。

まずは、山形で行われた木育体験プロジェクトです。鶴岡市立由良保育園、ちわら菜の花こども園にて、こどもたちに、木や森を感じ、身体運動を通じた教育機会が作られました。私は絵本「森はすこいなあ」の読み聞かせをしたのち、ポンポンを用いたオリジナルチャ体験を幼児たちといっしょに行いました。絵本の読

み聞かせで、木や森林の大切さを伝え、その後のオリジナルチャ体験に「葉っぱのポーズ」を取り入れて、ダンスをしました。「葉っぱのポーズ、覚えたよ」と終わった後に伝えてくれたこどももいました。こどもたちには、森林や木々に対する思いが芽生えるきっかけが必要です。その切り口の一つとして、私が学生時代打ち込んだチャを活かしたのは発見でした。きっかけは人それぞれだと思うので、今後も工夫をしながらこどもたちにアプローチしていきたいです。

二つ目は、NEALリーダー（自然体験活動指導者）の資格を取得したことです。森林などの自然豊かな場所、安全に配慮した実体験を提供することで、自然の素晴らしさを伝えることができる資格です。資格取得のための二泊三日の講習は、山梨県清里で行われました。全国から集まった参加者は、年齢も職業もみんなバラバラですが、自然体験がとても大事であるという共通の想いがありました。交流の中でさまざまなキャリアの視点でのお話を伺えました。元体育教員の方からは、スポーツを通じた自然環境教育の大切さを

教わり、大学で自然教育を学んでいる学生からは、自然が学びに影響することや、理想の環境について意見交換をしました。私自身の切り口は「こども」でしたし、みなさんそれぞれの切り口があります。それが私の視点を大きく広げてくれた経験でした。

今年八月の山の日には、このNEALリーダーの資格を活かし、ガイドウォークを行いました。「森の映画館」と題して、自然の中にある素敵な光景を参加者の皆様と一緒に楽しみました。

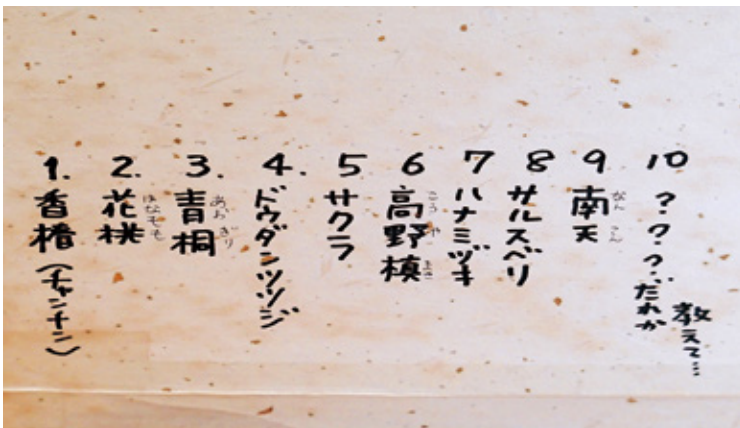
■メッセージ

これからも、得た知見や資格を活かして、たくさんの人々に森林や木々の魅力をお伝えしていきたいです。そして、多くのこどもたちが森林でのびのびと育つ機会づくりをしてみたいと思います。

■連絡先

一般社団法人ミス日本協会
〒一六〇一〇〇二三
東京都新宿区西新宿二一二一
京王プラザホテル南館九階





10番目の「???だれか教えて…」に答えてくれた救世主はいたのでしょうか

**何種類の木が
わかったでしょう?**

四ページで問いかけた十種類の木の名前は、木が納められた箱の後ろに写真の左側から順に記載されています。

最後(一番右)の木は、わからなかったようです。謎のままの木があるものの、いろんな木を集めて種類を調べた、その努力にも拍手です。



WOOD CHANGE

木材利用推進月間についてはこちらから

ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れるなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指しています。身近なところに木から作られるものを取り入れてみてはいかがでしょうか。

日本の国土の約三分の二を占める森林は、そこから生まれる木材を建築物等に活用することで、資源の循環、地球温暖化防止、国土保全といった多面的機能の発揮や、林業・木材産業の振興による地域経済の活性化等に繋がること期待されます。

**「ウッド・チェンジ
木づかいが 森をよくする
十月は「木材利用推進月間」です
暮らしを変える」**



NEALリーダー(自然体験活動指導者)としてガイドウォーク



鶴岡市でのこどもたちとのポンポン体操

みどりの大使の活動を紹介します

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

今月はみどりの大使の安藤きらりさんに、「私の森語り」へ原稿をお寄せいただきました。特技に「チアダンス」のほか、一風変わった「ニワトリの爪を整えること」を挙げられるユニークな一面も。

安藤さんの原稿にありましたが、こどもたちに森林や木々に対する思いが芽生えるきっかけをつくるのは大人の役目です。こどもたちが「情報」として知るだけでなく、自ら関わり、体験することを通じて自然や森林の大切さなどを理解する機会を提供するのはとても重要なことだと思います。

「はたらくくるま3」の歌詞には「やまみち らくらく しんりんパトロールカー」と紹介されています。森って楽しそう、森でのお仕事ってカッコいいかも、と感じてくれるこどもが増えるといいな～。



「みどりの大使」「ミス着物」2つの称号!

みどりの大使の安藤さん、実は、もう一つの称号をお持ちです!

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

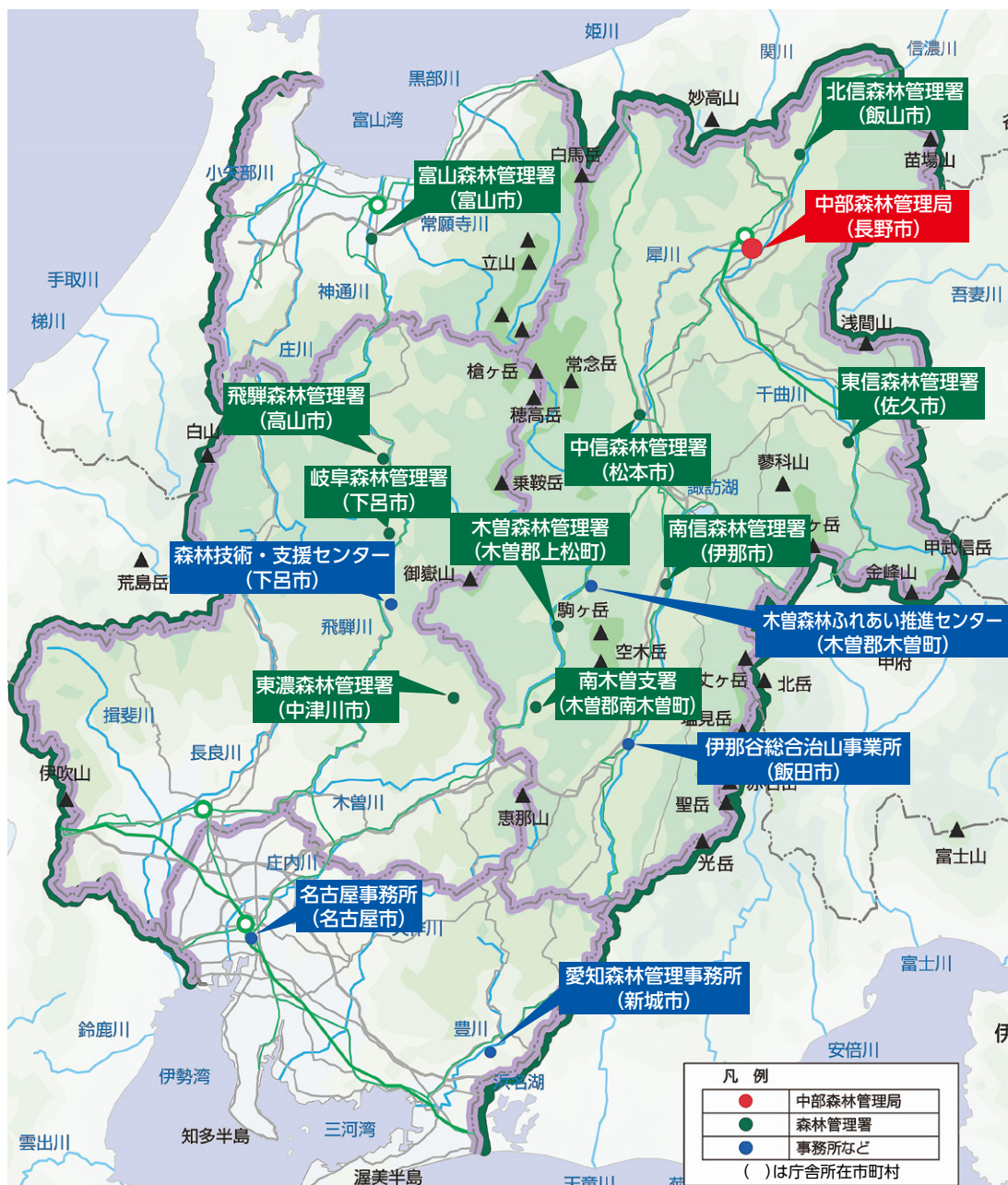


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。